GODOYOK
Eco Project

エコアクション21

2023 年度

環境経営レポート

発　行　2024 年 5 月 16 日

（対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

®環境省
エコアクション21
認証番号 0003750

合同容器株式会社

環境経営方針

環境理念

私たちは、環境にやさしい製品を提供する段ボールメーカーとして、北国の恵まれた自然を残すため、

環境負荷の軽減に努めます。

行動方針

1．　環境に関する法令・規制を順守し、環境に配慮した事業活動を推進します。

2．　仕事のムダ･ムリ･ムラをなくし、省エネルギーの推進と資源の有効活用に努めます。

3．　廃棄物の分別によるリサイクル化の推進と資源の再使用化に取り組み、最終廃棄物の減量化に努めます。

4．　水資源の節減と有効活用に努めます。

5．　当社で使用する化学物質について、その適切な管理に努めます。

6．　当社で購入する物品について、グリーン購入に努めます。

7．　環境にやさしい製品の企画・提案に努め、循環型社会の実現に貢献します。

8．　環境活動を通して環境保全意識を高め、その活動結果を社外に公開します。

2008 年 10 月　1 日　制定

2014 年　4 月　1 日　改訂

合同容器株式会社

代表取締役社長　日野　威

組織の概要・対象範囲

1．組織名および代表者氏名

合同容器株式会社

代表取締役社長　日 野　威

2．所在地

〒061-1492　北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 39 番　　TEL：(0123) 32-4141

3．事業内容

段ボールおよび段ボール箱の製造、加工、販売

紙加工品および包装・物流関連商品の販売、包装機械・器具の販売

http://www.godoyoki.co.jp/

4．事業の規模

主要製品生産量	57,800 千㎡
従　業　員　数	115名
敷　地　面　積	84,800 ㎡

5．対象範囲　全 8 個所　認証・登録番号 0003750

本社 ・札幌事業部：北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 39 番　TEL：(0123) 32-4141

函館事業部：北海道函館市港町 1 丁目 32 番地 34 号　TEL：(0138) 42-0101

青森事業部：青森県青森市大字油川字柳川 92 番地 1　TEL：(017) 788-2121

«営業拠点»

東京営業所：　東京都千代田区神田須田町 1-14-1
ヒューリック神田須田町ビル(受付 1 階)　TEL：(03) 6859-8667

札幌営業所：　札幌市白石区菊水 6 条 3 丁目 1 番 1 号　TEL：(011) 841-4185

旭川営業所：　旭川市東鷹栖 2 線 1 1 号　TEL：(0166) 57-2431

北見営業所：　北見市東相内町５６０番地の５　TEL：(0157) 36-2431

帯広営業所：　帯広市西 3 条南 28 丁目 17 番地 9 雅ハイム 1 階　TEL：(0155) 27-1341

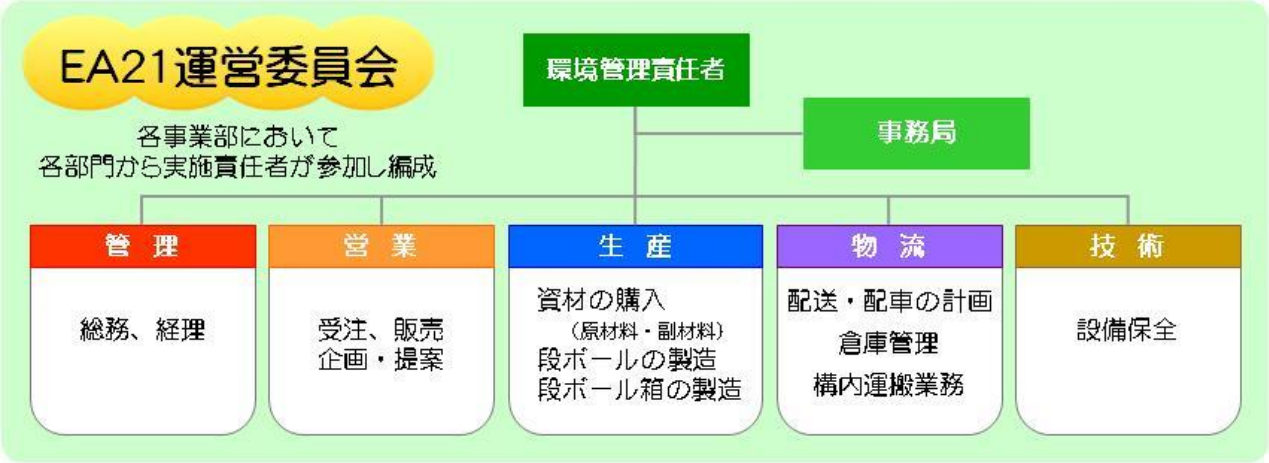
6．環境管理責任者及び担当者連絡先

環境責任者:　品質保証部長代理　上野　経太

事業責任者:　札幌事業部長　佐 藤　明

函館、青森事業部長　佐 藤　正 樹

事　務　局：　品質保証部 品質管理課　阿波　健太　TEL：(0123) 33-7198

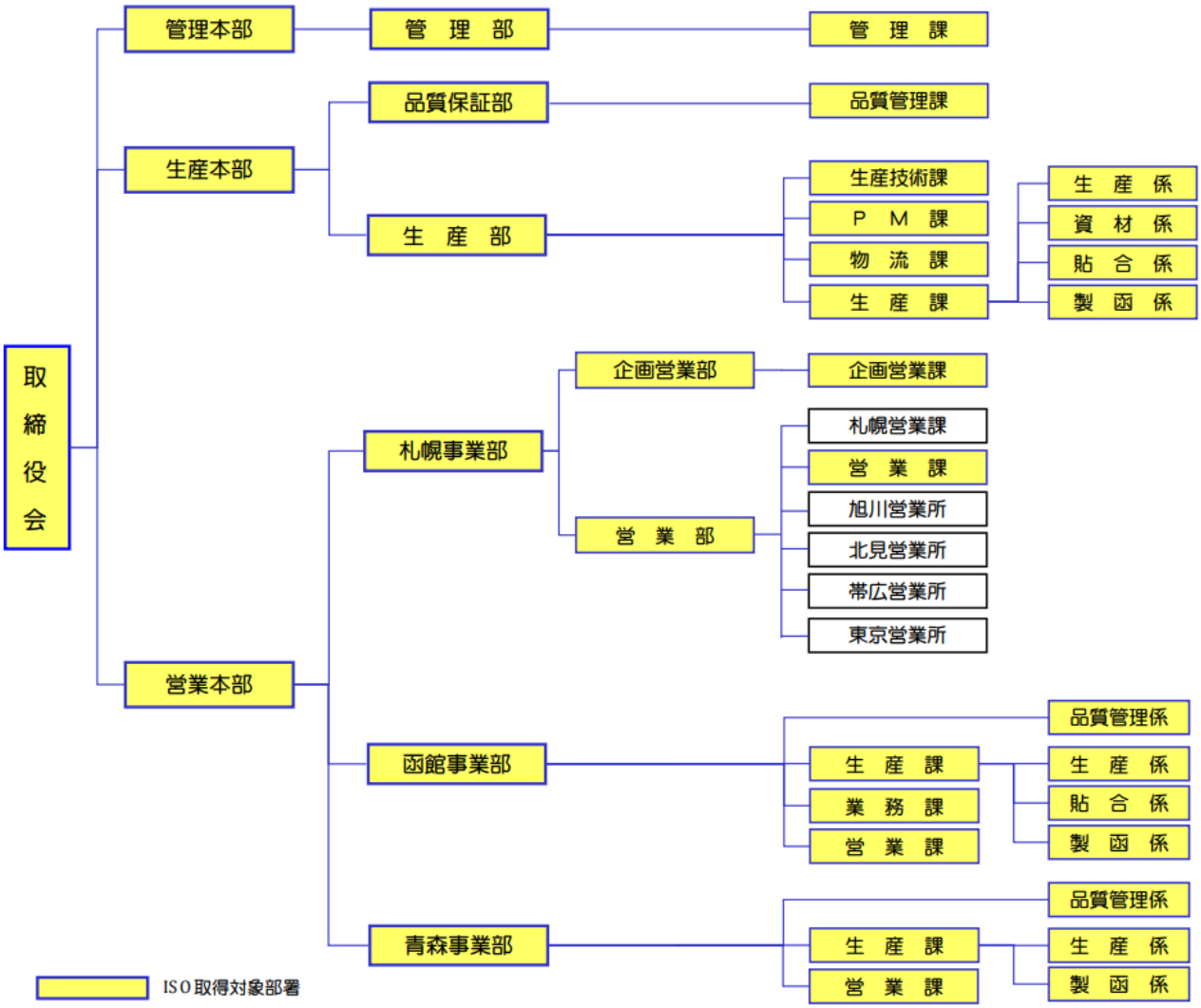


7．運営組織

8．会社組織図

会 社 組 織 図

2023/04/01改定



環境に配慮した製品の紹介

当社のホームページで紹介しています。　http://www.godoyoki.co.jp/product/

■ 段ボールシート/ケース

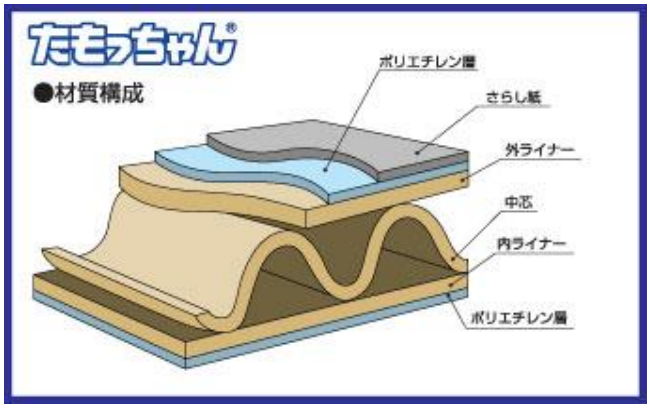
段ボールは強度と使いやすさを兼ね備え、環境にもやさしい理想的な包装素材です。さらに、その優れた印刷特性によって商品イメージをアピールし、様々な情報を伝えることができます。

当社ではこの段ボールの特徴を生かし、商品イメージを高めて内容物を安全に保護・輸送できるよう最適なパッケージを提供いたします。用途や目的に合わせ、段種も AF、BF、CF、EF、ABF と幅広く取り揃えています。

■ たもっちゃん®

「たもっちゃん」は、特殊耐水原紙を使用した機能性段ボールで、耐水性と鮮度保持効果をプラスしました。従来の耐水段ボールと異なり、使用後にリサイクルが可能で地球環境にやさしい包装素材です。

※　「たもっちゃん」の総製造販売元は日本トーカンパッケージ株式会社で、当社は北海道地区の製造委託販売元です。



■ バイアスエコパネル（略称 BEP）

BEP は、段ボールと異なる独自構造をもった紙パネルで、地球環境にやさしい新素材です。BEP を特徴付けているのは、そのバイアス（斜交）構造の中しんにあります。交互に組み合わされた中しんは強固な連続結合を形成し、この両面に特殊紙を貼り合わせてパネルに加工しました。

BEP は、軽量でありながら高い強度を有し断熱性や加工性にも優れ、また廃棄の際は古紙処分が可能で、多くの長所をもつ優れた素材です。オリジナルのディスプレイや POP など、幅広い分野にご利用いただけます。

環境経営目標

中長期の目標

2020 年度を基準年として、2021 年度からの中長期（3 年間）の目標値を示す。

削減率を策定する上で、原単位での比較が望ましいものについては、主要製品である段ボールの生産平米当りの使用量または排出量として算定した。

環境負荷項目	単位	2020 年度 （基準年実績）	2021 年度	2022 年度	2023 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO_2/千 m^2	79.09	78.29 1％削減	77.50 2％削減	76.71 3％削減
電　　力	kg-CO_2/千 m^2	34.65	34.30 1％削減	33.95 2％削減	33.61 3％削減
C 重 油 （札幌事業部のみ）	kg-CO_2/千 m^2	32.21	31.88 1％削減	31.56 2％削減	31.24 3％削減
L P G	kg-CO_2/千 m^2	2.22	2.19 1％削減	2.17 2％削減	2.15 3％削減
古紙の発生率 札幌事業部	%	10.46	前年比削減	前年比削減	前年比削減
函館事業部	%	11.16	前年比削減	前年比削減	前年比削減
水資源（上水＋地下水）	L/千 m^2	0.44	前年比削減	前年比削減	前年比削減

環境経営計画

活動の経過

2009 年　6 月　　本社・札幌事業部（営業所除く）で EA21 を認証・登録

2009 年　10 月　　マネジメントレビューにてサイトの拡大を決定し全社展開を開始

2010 年　3 月　　EA21 ガイドライン 2009 年版への対応

2010 年　5 月　　全社（合計 8 拠点）で認証取得

2020 年　3 月　　EA21 ガイドライン 2017 年版への対応

取組み主要項目

・使用エネルギーの削減

・廃棄物の削減、古紙発生率の低減

・水使用量および排水量の削減

・環境負荷に配慮した製品の購入（グリーン購入）と販売の推進

・化学物質使用状況の把握

CO_2 排出量の削減 （㎡原単位前年対比１％減）	CO_2 排出に起因するエネルギーの消費（投入）量の削減	評価	今後
電　　気	稼動率の向上。節電、空調温度基準設定。 クールビズ、ウォームビズの推進。	○	継続
Ｃ 重 油	稼働率の向上。配管の断熱、蒸気漏れの修繕。	○	継続
Ｌ Ｐ Ｇ	リフト走行マナーの励行。食堂への省エネ協力要請。	○	継続
灯　　油	焼却炉の稼働を監視。空調温度基準設定。ウォームビズの推進。	○	継続
ガ ソ リ ン	運行日報で燃費管理。エコドライブの推進・励行。 エコカーの検討。	○	継続
配送効率の向上	配送効率を向上するような製造計画の作成。 効率的な配送計画の作成。	○	継続
廃棄物の削減とリサイクル化推進	**ゴミを分類（定義）し、ゴミの分別を徹底する。**		
古紙発生を削減	小径原紙の効果的な使用。ロス削減会議の定期開催。	○	継続
コピー用紙使用量の削減	電子文書の活用。裏面利用など再利用。	○	継続
廃棄コピー用紙のリサイクル化	焼却処理をやめリサイクル化。 機密文書はシュレッダー処理してリサイクル。	○	継続
飲料容器のリサイクル化推進	飲料容器の分別処理。 PET ボトルキャップおよびリングプルを回収し、地域団体へ寄付。	○	継続
排水量の削減	**節水に努め排水量を削減する。**		
上水道使用量の削減	手洗い・トイレの節水喚起。食堂への節水協力要請。	○	継続
地下水使用量の削減	貼合糊着量の削減。ボイラー冷却水の適正使用量の設定。 インキ洗い水の削減。	○	継続
環境配慮製品の購入と販売			
グリーン購入の推進	事務用品エコ製品購入の啓蒙・推進。	○	継続
ＢＥＰの売上ＵＰ	DDPC 事業において環境配慮素材である BEP の採用率を UP。	○	継続
顧客への提案	リデュースにつながる材質、寸法、形式の提案。 環境に配慮した素材の提案。	○	継続
化学物質使用状況の把握			
化学物質使用状況を監視	毎月の EA21 推進会議にて接着剤の使用量を監視。	○	継続

主な環境負荷の実績

過去３年間の主な環境負荷

【全社の負荷データ】

環境負荷項目	単位	2021 年	2022 年	2023 年
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	5,038,594	4,179,418	4,676,216
電　力	kWh	3,595,414	3,557,747	3,607,111
重　油	KL	876	732	698
ＬＰＧ	kg	51,691	55,882	48,693
廃棄物（再生古紙含む）	ton	4,117	4,378	5,643
水使用量	m^3	30,726	31,119	29,337
上水道	m^3	3,269	3,264	3,046
地下水	m^3	27,457	27,855	26,291

※電力の排出係数(kg-CO_2 /千 kWh）北海道電力(株)：0.535

環境経営目標と実績

2023 年度（2023/04/01～2024/03/31）実績　　○：目標達成、×：目標未達

環境負荷項目	単位	2022 年実績	2023 年目標	2023 年実績	判定
二酸化炭素排出量	kg-CO_2/千 m^2	76.77	76.71	80.90	×
電　力	kg-CO_2/千 m^2	32.37	33.61	33.26	○
Ｃ重油(札幌のみ)	kg-CO_2/千 m^2	35.85	31.24	36.22	×
ＬＰＧ	kg-CO_2/千 m^2	2.23	2.15	2.52	×
古紙の発生率 札幌事業部	%	10.35	前年比削減	10.50	×
函館事業部	%	11.10	前年比削減	10.96	○
水使用(上水＋地下水)	L/㎡	0.45	前年比削減	0.50	×

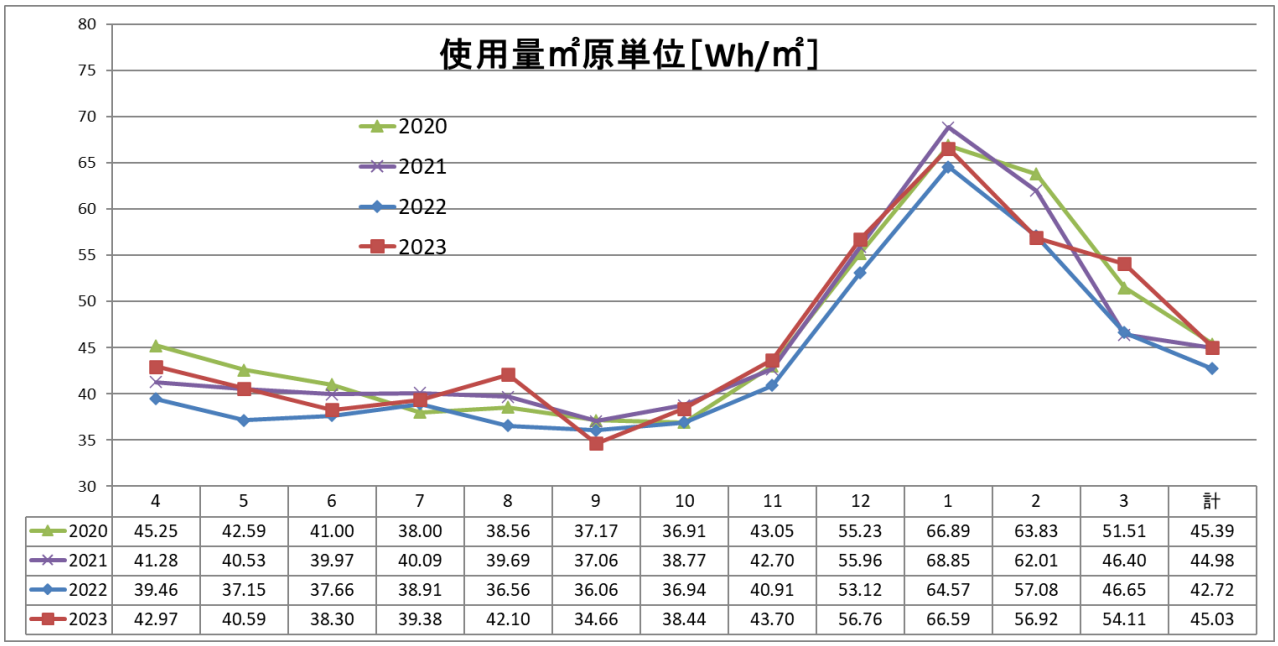
※電力の排出係数(kg-CO_2 /千 kWh）北海道電力(株)：0.601　東北電力(株)：0.460

環境経営目標の取組結果とその評価、次年度の取組について

【エネルギー使用量の削減】

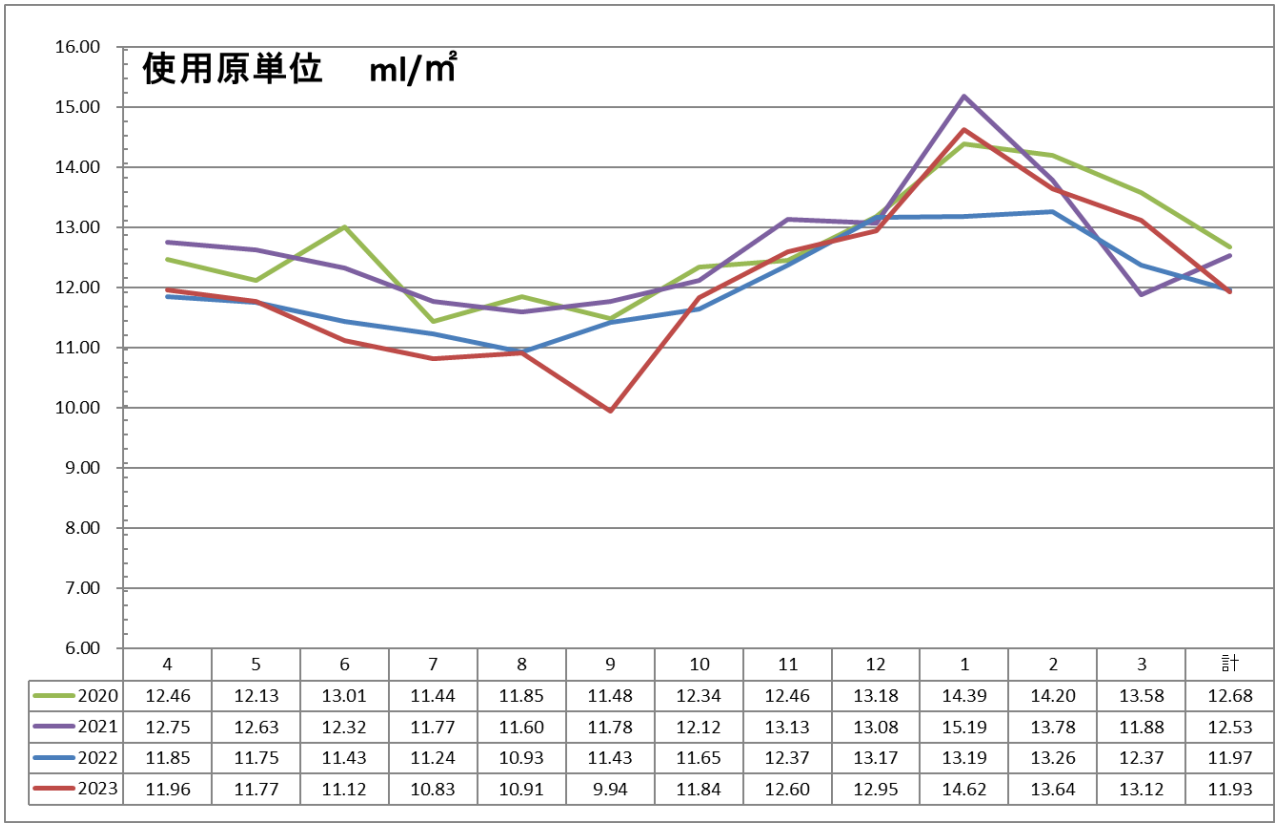
環境経営目標では電力と函館事業部の古紙率の項目で目標達成となった。

電力



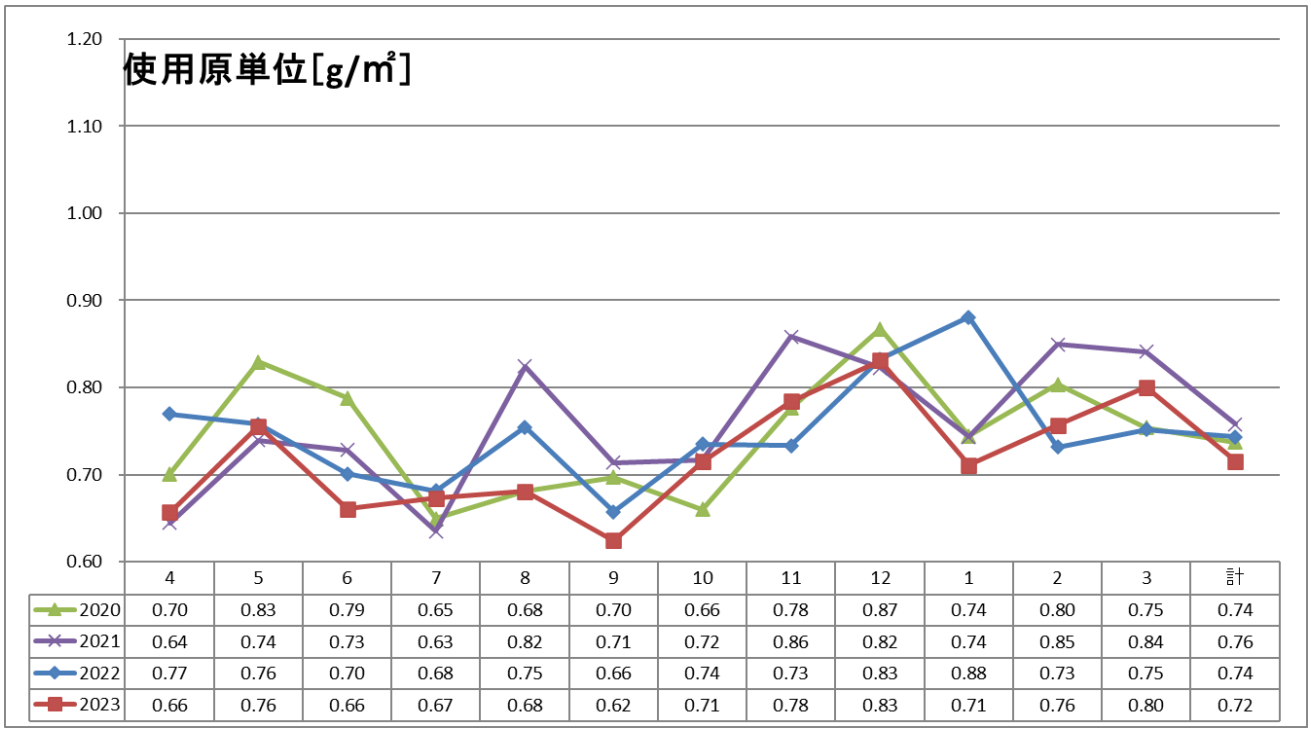
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2020	45.25	42.59	41.00	38.00	38.56	37.17	36.91	43.05	55.23	66.89	63.83	51.51	45.39
2021	41.28	40.53	39.97	40.09	39.69	37.06	38.77	42.70	55.96	68.85	62.01	46.40	44.98
2022	39.46	37.15	37.66	38.91	36.56	36.06	36.94	40.91	53.12	64.57	57.08	46.65	42.72
2023	42.97	40.59	38.30	39.38	42.10	34.66	38.44	43.70	56.76	66.59	56.92	54.11	45.03

重油



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2020	12.46	12.13	13.01	11.44	11.85	11.48	12.34	12.46	13.18	14.39	14.20	13.58	12.68
2021	12.75	12.63	12.32	11.77	11.60	11.78	12.12	13.13	13.08	15.19	13.78	11.88	12.53
2022	11.85	11.75	11.43	11.24	10.93	11.43	11.65	12.37	13.17	13.19	13.26	12.37	11.97
2023	11.96	11.77	11.12	10.83	10.91	9.94	11.84	12.60	12.95	14.62	13.64	13.12	11.93

LPG



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2020	0.70	0.83	0.79	0.65	0.68	0.70	0.66	0.78	0.87	0.74	0.80	0.75	0.74
2021	0.64	0.74	0.73	0.63	0.82	0.71	0.72	0.86	0.82	0.74	0.85	0.84	0.76
2022	0.77	0.76	0.70	0.68	0.75	0.66	0.74	0.73	0.83	0.88	0.73	0.75	0.74
2023	0.66	0.76	0.66	0.67	0.68	0.62	0.71	0.78	0.83	0.71	0.76	0.80	0.72

（次年度の取組）

主要設備においては引き続き稼働率の向上に努める。また、Web デマンド監視装置を継続して活用し、電力使用状況の監視を継続し各部署にて節電の励行に努める。工場においては、時短勤務時期を策定して使用エネルギーの削減を図る。また、各営業拠点では待機電力の削減活動に努める。

【廃棄物の削減、古紙発生率の低減】

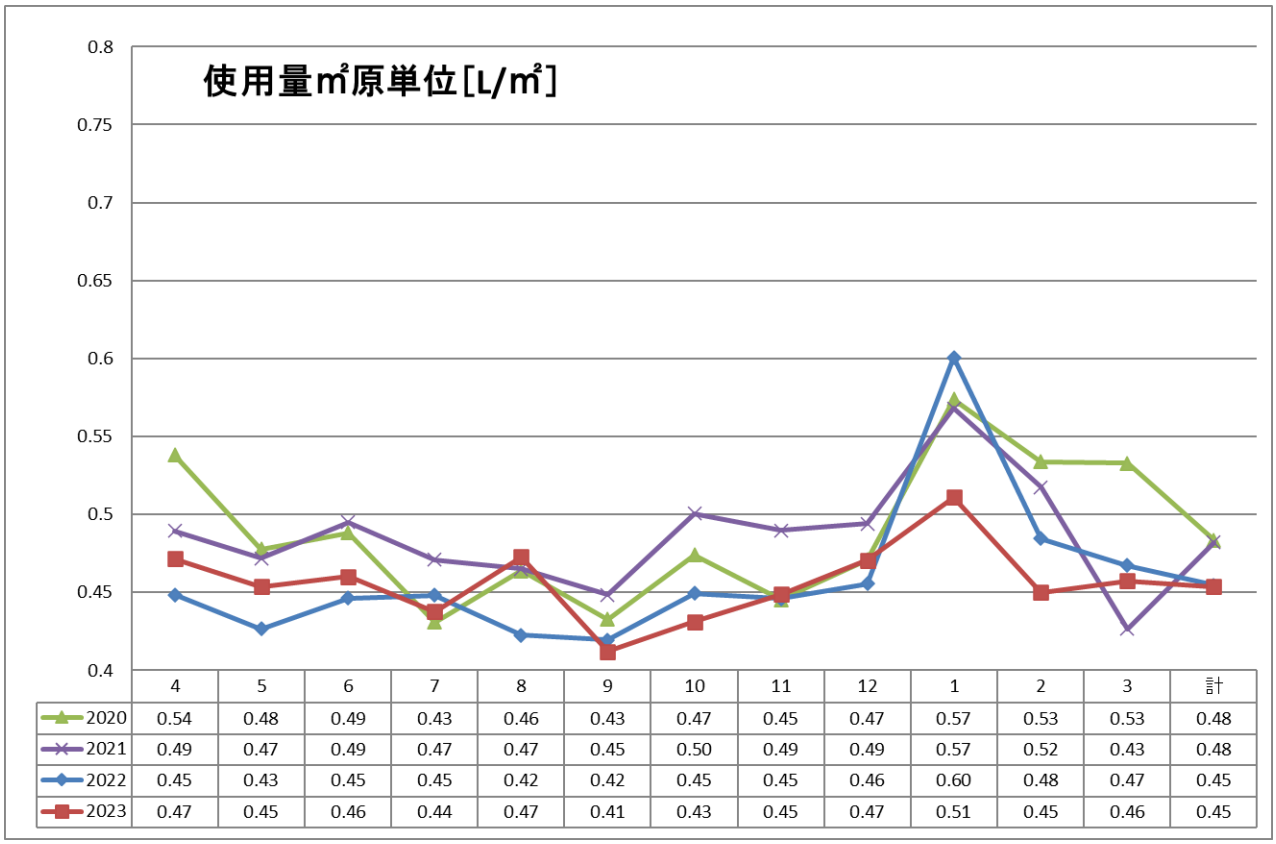
廃棄物の総重量は前年度よりも増加となった。また、古紙の発生率については函館事業部で削減となっており来年度も引き続き削減できるよう活動を継続する。

（次年度の取組）

生産工程でのロスの削減に努め、更に古紙発生率の低減を進める。

【水使用量の削減】

水については上水・地下水共に使用量が減少となり、使用原単位は昨年と横ばいとなった。主要設備以外での使用量を削減するべく毎月のエコアクション 21 会議で監視を続ける。



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
2020	0.54	0.48	0.49	0.43	0.46	0.43	0.47	0.45	0.47	0.57	0.53	0.53	0.48
2021	0.49	0.47	0.49	0.47	0.47	0.45	0.50	0.49	0.49	0.57	0.52	0.43	0.48
2022	0.45	0.43	0.45	0.45	0.42	0.42	0.45	0.45	0.46	0.60	0.48	0.47	0.45
2023	0.47	0.45	0.46	0.44	0.47	0.41	0.43	0.45	0.47	0.51	0.45	0.46	0.45

（次年度の取組）

2023 年度も漏水箇所の発生は無く適切な使用量となっていた。今後も毎月のエコアクション 21 会議にて水の使用量を監視すると共に、主要設備以外でも使用量を減らす努力をする。

【環境負荷に配慮した製品の購入・販売の推進】

（グリーン購入）

事務用品は web 購入しており、毎月支払い時にグリーン購入率が分かるようになっている。各事業所・営業所の購入担当者は、グリーン購入を意識して出来る限りエコマーク付きの製品を購入するように心掛けている。

（BEP 製品の売上向上）

BEP（バイアスエコパネル）製品の拡大のために立ち上げた DDP C 事業においては、段ボールユーザーだけでなく幅広い分野にて環境配慮素材である BEP の特長を生かした商品の提案を推進する。

（環境配慮製品の顧客への提案）

当社が製造する段ボールおよび関連製品は、リサイクルが可能で環境に配慮した製品といえる。したがって、段ボール製品における顧客提案は、そのまま循環型社会の実現につながるものである。営業部門では顧客提案の件数および採用率を目標に掲げ、積極的に提案型の営業をしている。

【化学物質使用状況の把握】

毎月の EA21 推進会議にて接着剤の使用量を監視したが異常な使用量は見られなかった。

購買品については各メーカーから SDS 及び分析結果を入手し、そのデータを管理している。顧客から要望があれば、随時各購買品の化学物質について報告する体制が構築されている。

毎年恒例の環境経営活動

【避難訓練・設備トラブル発生時の緊急時対応シミュレーション】

環境関連法規等の遵守状況の確認、違反・訴訟の有無

【環境関連法規の遵守状況】

適用される法規制	適用される事項
廃棄物処理法	産業廃棄物(廃プラ、汚泥、焼却灰)
振動規制法	空気圧縮機
消防法	A・C 重油地下タンク
水質汚濁防止法	A・C 重油地下タンク、灯油タンク
下水道法	廃液処理装置
フロン排出抑制法	事務所空調機、工場用スポットクーラー
省エネ法	特定事業所に該当

当社に該当する環境関連法規についての遵守状況を確認した結果、違反となるような事実はなかった。

【訴訟等について】

近隣住民や他社からの訴訟等の事実はない。

全体評価と見直し

電力について、夏季の気温上昇に伴い冷房の使用時間が増えることが予想される為、工場人員への暑さ対策グッズ等の配布を視野に入れて電力の削減を図る。また、省エネ活動以外の変動要因の影響もある為、今後も引き続き生産量原単位での評価を継続する。

今後も、当社の基幹事業である段ボール製品について、生産効率の良い仕様へ提案活動を推進し更なる生産効率の向上を行ない、エネルギーの使用量削減に努める。また、生産工程におけるロス削減活動を継続し、古紙発生率の低減を進める。